

その三

嶺村法子

幼稚園から道路二本はさんだ向こう側に、かつて小学校のプールだった場所があります。併設の小学校が開校九十周年の記念事業で、校庭を掘ってシーズンオフにはトラックになる蓋付きのプールを作ったので、校外のプールは必要なくなりました。そこで、プール跡地に土を入れ、子どもたちが栽培活動のできる畑に生まれ変わらせることになりました。

「月一園」と名付けられたその畑では、小学生、幼稚園児だけでなく、園芸の好きな地域のおじいちゃん、おばあちゃん、PTAのお母さん方を巻き込んで、様々な野菜や花が育てられています。五年目になった今年は、土作りやカラス対策も万全で、学年ごとに区切られた畑のそこそこで収穫の歓声が上がりました。

春

肥料をすき込み　畝を作り

両手にそうっと包み込むように

ピーマンとナスとトマトの苗を植えた

オクラと綿の種もまいた

水をやりに　支柱を立て

夏

蚊に刺されながら　草抜きをした

畑に行くたび　両手いっぱいのおみやげ

とつても　とつても　次見に行くともう

オバケキュウリになっている

「ねえ、これで何作る？」

「カレーにしようよ、月一カレー」

「前のうみ組さんが作ってくれたよ」

「今度はあたしたちがみんなに作ってあげようよ」

よ

「じゃあ、明日のお弁当はご飯だけでいいですってお母さんに言ってるね」

ナスをざくざく トマトもざくざく

「ピーマンも入れちゃえ！」

「ええっ、キュウリも入れるの？」

「いれよう いれよう」

「どんな味かな？」 「ほんとに大丈夫？」

「うわあっ、キュウリがとろけてる！」

「カレーとキュウリって結構合うよね」

「お母さんにも教えてあげなきゃ」

「オクラのトッピング、お星様みたい」

「ぼくピーマン嫌いだけど食べられたよ」

「スーパで売ってるのよりおいしいね」

「大きくなあれ おいしくなあれって

みんなでお水をやったからだね」

「栄養たっぷりになるように がんばって

草抜きもしたからね」

「こんどはサラダ作ろうよ」

「あたし、家からおみそ持ってこよう。」

キュウリにつけて食べるとおいしいよ」

「マヨネーズとお醤油も合うよね」

「オクラにはやっぱりおかかとお醤油かな」

お弁当のテーブルの真ん中に、

ひと盛りにした ざく切りサラダは

あつというまに からになる

みんなでつついて食べる 質素なサラダが

「本日のメインディッシュ」

になる ひととき

子どもたちが栽培にかかわれる時間はわずかだが、「自分たちで育てた」という思いが野菜の味を変え、自然の恵みを分かち合う喜びにつながる。その陰に、私たち以上に汗を流してくださった地域の方がいる。銀座まで徒歩圏内のここ月島にも、汗を拭きながら子どもたちと畑仕事に精を出す暮らしがある。

(中央区立月島第一幼稚園)